

通し番号	5233
------	------

分類番号	R06-94-32-06
------	--------------

カサゴの種苗生産技術の開発	
[要約] 新たな栽培対象種として、漁業者や漁協からの種苗放流による資源増大の要望が大きいカサゴの種苗生産技術を開発し、種苗生産マニュアルをとりまとめた。本研究では、種苗の県内生産の実現に必要な種苗生産技術を確立するとともに、将来的に県内生産を行う上で必要な施設規模を明らかにするなど一定の成果を得た。	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先 046-882-2311

[背景・ねらい]

新たな栽培対象種として、漁業者や漁協からの種苗放流による資源増大の要望が大きく、平成27年に策定された第7次神奈川県栽培漁業基本計画の対象種に加えられたカサゴについて、県内での種苗生産の実現を目指し、親魚養成から種苗放流に至る種苗生産技術の開発に取り組んだ。

[成果の内容・特徴]

- 1 研究開始当初は、採苗用の親魚を刺し網漁より調達していたが、漁獲時に受けた傷から感染症にかかったり、仔魚を産んでも生き残りが悪かったりするなどして、親魚としては不適であった。そこで、自ら釣獲した個体を水槽内で周年飼育し、採苗に適した状態になるまで親魚を育てたところ、毎年安定して採苗できるようになった（図1～2）。
- 2 他県機関による研究によると、カサゴ仔魚は生後15～20日前後と40日前後に大量死が発生することが知られており、当センターでも同様の事象が発生した。本研究では大量死の原因を明らかにすることはできなかったが、仔魚を兄弟単位で管理する方法（状態が悪い水槽は諦め、また新しい親魚から仔魚を取り直す）を採用したところ、状態の悪い個体の影響が全体に波及することなく、生産の安定化につながった（図3～4）。
- 3 当センターにおける年間の種苗生産尾数は、8,212～17,200尾（平均11,797尾、図5）、単位水量当たりの生産尾数は平均1,639尾/m³で、本種の種苗生産の先進地の一つである佐賀県の1,750尾（江口・岡山, 2015）とほぼ同水準であった。
- 4 本研究で開発した種苗生産手法を「神奈川県におけるカサゴ種苗生産マニュアル」として取りまとめた（図6）。

[成果の活用面・留意点]

現在のところ、施設面の制約等から、県内での本種の種苗生産の事業化は実現していないが、将来的に事業化されることとなった際、本研究で作成したマニュアルの活用が期待される。

[具体的データ]



図1 親魚養成水槽



図2 産仔直前で腹部が膨れた雌親魚

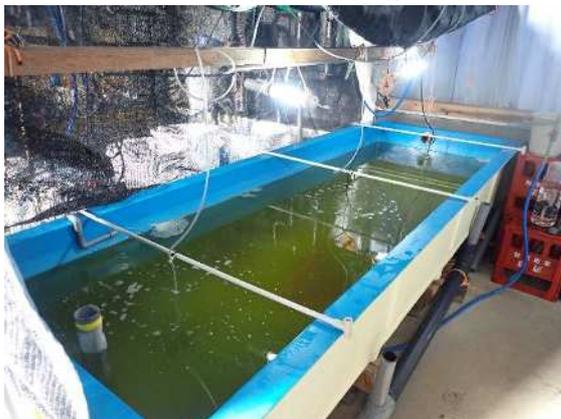


図3 採苗兼仔魚飼育水槽



図4 生産したカサゴ種苗

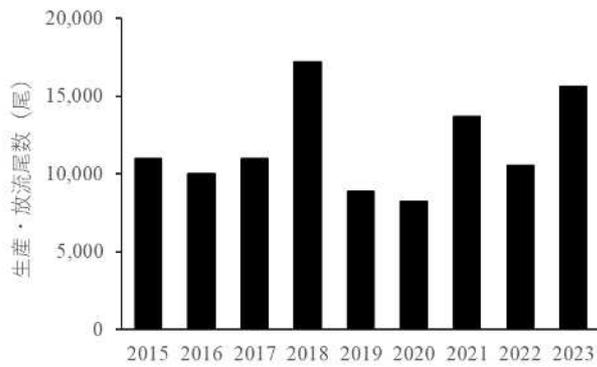


図5 当センターにおける種苗生産尾数の推移



図6 種苗生産マニュアル

[資料名] 令和6年度神奈川県水産技術センター業務報告

神奈川県におけるカサゴ種苗生産マニュアル

[研究課題名] カサゴ種苗生産技術開発

[研究期間] 平成27年度～令和6年度

[研究者担当名] 武内啓明、濱田信行、吉田幸正